

## 2 江東区における生態系サービスの利用

江東区では、昔から現在に至るまで、区内外、更には世界中の自然環境や生きものから、様々な「生態系サービス（第1章で紹介した自然の恵みによる4つのサービス）」を受けて暮らしてきました。これらの恵みをこれからも受け続け、未来の世代にも引き継いでいくためには、自然の豊かさや生きもの多様性を守り続けることが大切です。

### (1) 生存基盤としての恵み（基盤サービス）

私たちの暮らしを支える自然の働き（基盤サービス）には、生きものの棲みかを提供すること、酸素の供給、水や栄養分の循環、土壌の形成等があり、人を含む全ての生きものつながりにとって欠かせないものです。これらは、他の三つの生態系サービス（食料や水等をもたらす供給サービス、自然との触れ合いを通じた文化的サービス、気候や水質を調整する調整サービス）を支える土台となっています。

江東区では、こうした自然の恵みが様々な場所で見られます。例えば、ポケットエコスペースや公園、河川・運河、干潟等の緑地や水辺では、それぞれに生きものが生息・生育しており、生態系が形作られています。このような多様な生態系が基盤となり、豊かな生態系サービスを支えています。

### (2) 食料や資源をもたらす恵み（供給サービス）

食料や資源をもたらす自然の恵み（供給サービス）は、江戸期から「江戸前の食」や国内外で生産された木材の流通を通じて人々の暮らしを支えてきました（表2-4）。しかし、現代では、食料自給率といった数値は低く、供給サービスの多くを区外に依存しているのが実態です。

表 2-4 江東区における代表的な供給サービスの例

時期	供給サービス	概要	主な生きもの
江戸期 〜 現代	江戸前の食 (深川丼)	漁業によるアサリやハマグリ等の貝類と、ネギ等の野菜を煮込んだ汁物をご飯にかけたり、一緒に炊き込んだりした料理です。漁師の食事が由来になっています。	アサリ ハマグリ 等
	江戸東京 野菜	東京では江戸期から野菜づくりの文化が受け継がれてきました。昭和の中ごろまでは、地元で育てられた品種や、近くの種苗店から手に入れた種を使って、昔ながらの方法で野菜が栽培されました。	亀戸ダイコン 砂村三寸ニンジン 砂村一本ネギ 等
	木材	江戸幕府は火事の心配が少なく、使いやす場所として永代島（現在の富岡八幡宮から佐賀町にかけての一带）を材木置き場に選びました。その後、まちの発展に伴い、材木置き場は新木場へ移されました。	スギ・ヒノキ等の 利用に適した 樹種



写真 2-1 深川めし

【出典】一般社団法人江東区観光協会ウェブサイト「江東おでかけ情報局「深川めし」」



写真 2-2 江戸東京野菜

【出典】東京都農業協同組合中央会写真提供

写真 2-3 新木場の貯木場  
(平成4(1992)年2月)

【出典】東京都ウェブサイト「東京アルバム「木場の貯木場(江東区)」」

## コラム 江東区の食 ～深川めし・江戸東京野菜～

### 深川めしのルーツ

深川地区では、寛永6(1629)年に漁業集落「深川獺師町」が誕生し、将軍に魚を献上する役割も担っていました。深川浦(現在の永代、佐賀あたりの南側で大横川の一部)では、内湾沿岸漁業や干潟での採貝・採藻が盛んで、「きす」「ほうぼう」等多様な魚介類が水揚げされ、鰻や牡蠣等は名産として知られています。

これらの新鮮な魚介類を使って、まかない飯をつくったことが深川めしのルーツと考えられています。その後、郷土料理として定着し、江戸前の食文化を形成しました。

現代では、かつてのように漁獲量は多くなく、漁師町としてののにぎわいはなくなってしまいましたが、近所の魚屋に並ぶスズキ等の江戸前の魚介類を手にし、生物多様性の恵みを味わってみてください。

### 亀戸大根

城東地区の砂村では、スイカやキュウリ等の野菜が栽培され、江戸の大消費地に供給する「江戸東京野菜」の産地として栄えました。キュウリは将軍への献上品とされ、亀戸では亀戸ダイコンが名産として知られています。

現代でも香取小学校や水神小学校等で亀戸ダイコンの栽培や香取神社への奉納(亀戸大根収穫祭)が行われ、伝統野菜の学習を通じて地域の農業文化が継承されています。



【出典】江戸東京・伝統野菜研究会 大竹道茂ウェブサイト「江戸東京野菜通信 令和4(202)2年3月14日記事」  
(<http://edoyasai.sblo.jp/article/189395946.html>)

### (3) 文化や歴史を育む恵み（文化的サービス）

江東区には、文化や歴史を育む自然の働き（文化的サービス）が数多くあります（図 2-4）。例えば、「花文化」や「区民農園（農体験）」、「釣り」、「探鳥会」等があり、江戸期には「潮干狩り」も盛んに行われました。また、水辺や緑地は人々にとっての癒しの場としても利用され

ています。

特に、江東区の花文化は「江戸園芸」として親しまれ、江戸期から現代まで受け継がれています。区内の神社仏閣、公園、庭園、緑道等には、四季折々の花や紅葉を楽しめる場所が点在しており、歴史と自然が調和した名所として多くの人々に親しまれています。

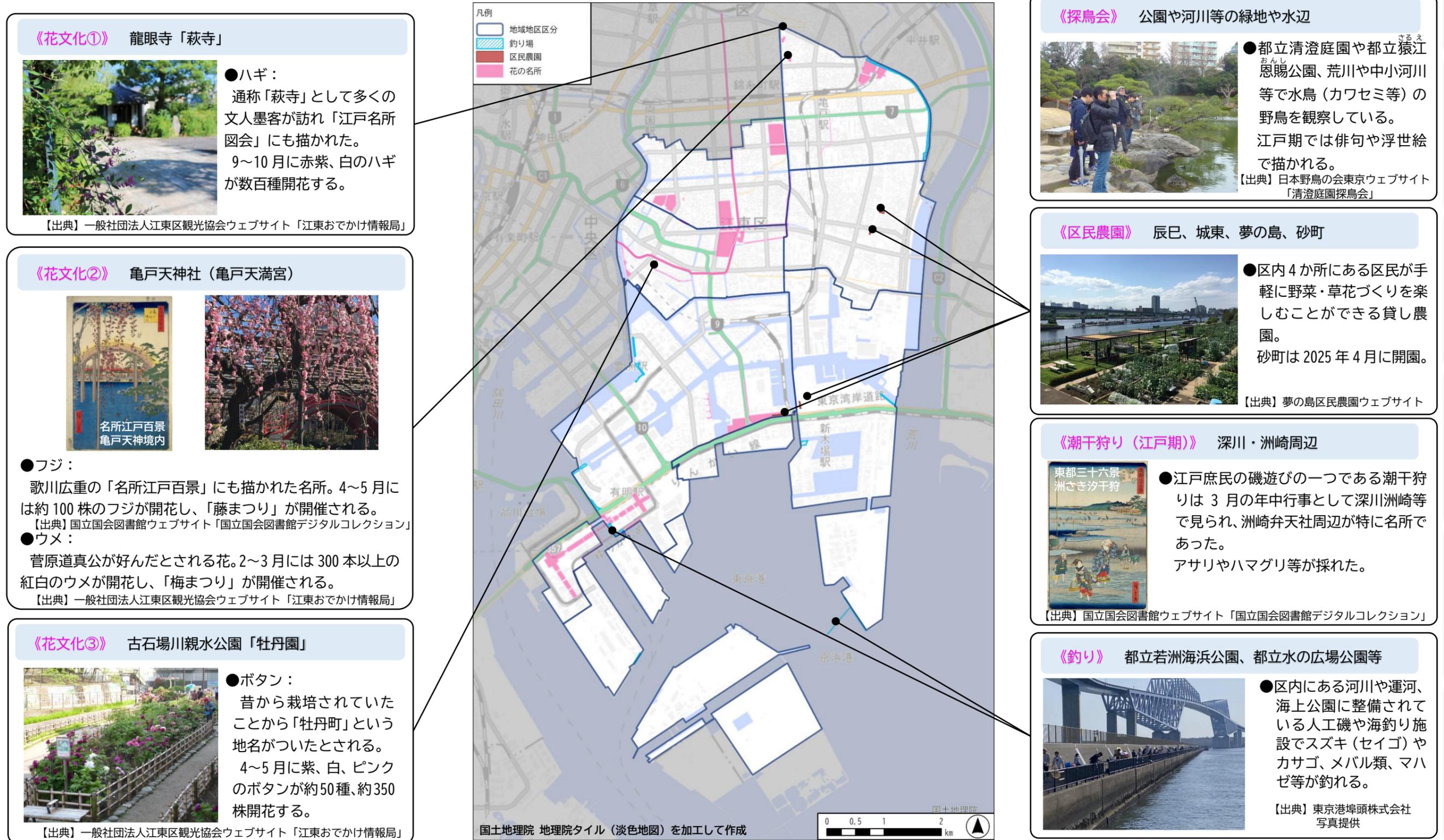


図 2-4 江東区における文化的サービス

#### (4) 安心・安全を支える恵み（調整サービス）

江東区では、様々な自然の働き（調整サービス）によって、私たちの暮らしが守られています（表 2-5）。例えば、ヒートアイランド現象（都市の気温が高くなる現象）をやわらげたり、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防いだりしています。また、雨水を地面にしみこませて貯めることで、水害のリスクを減らす役割もあります。

更に、公園や広場等のオープンスペースは、災害時の避難場所として使える効果もあります。干潟や河川沿いの植物は、水をきれいにする働きもあり、私たちはこうした多くの自然の恵みを受けています。

表 2-5 江東区における代表的な調整サービスの例

調整サービス	代表的な効果	概要
気候の調整	気候変動の緩和	緑の温室効果ガスの吸収・貯留による地球温暖化の緩和
大気質や都市環境の質の改善	ヒートアイランドの緩和	緑による日射の遮断や蒸発散作業等によるヒートアイランド（都市部の気温が周辺の郊外よりも高くなる現象）の緩和
	大気汚染や騒音の低減	緑による大気汚染物質（粉塵や有害ガス等）の吸着 植栽帯の存在による騒音の低減
水質浄化	水質浄化	干潟や河川沿いの植生による栄養塩（窒素、リン、カリウム等の無機塩類）等の吸収による水質浄化
災害の緩和	水害の低減	緑地の持つ雨水の貯留・浸透機能による水害の低減
	延焼遅延・防止や防災・避難場所の確保	緑地の存在による火災発生時の延焼遅延や防止 公園等災害時における避難や防災拠点としての機能



写真 2-4 壁面緑化  
（豊洲西小学校）

【出典】江東区「江東区みどりの基本計画（後期）」  
（令和 7（2025）年 3 月）



写真 2-5 防災拠点の公園  
（都立大島小松川公園）

【出典】アメニス東部地区グループウェブサイト  
「TOKYO EAST PARK「大島小松川公園」」

## コラム 江東区の花文化



▲詳しくはこちら

江東区では、江戸時代から花文化として「江戸園芸」等がありました。そして現在も区内各地で様々な季節の花を楽しむことができます。

代表的な花文化の例として、亀戸天神社の「藤まつり」のフジや「梅まつり」のウメ、大横川護岸等の「お江戸深川さくらまつり」や仙台堀川公園のサクラ、龍眼寺のハギ、古石場川親水公園のボタン、都立猿江恩賜公園等のチューリップ、越中島公園のサツキ、都立清澄庭園のアジサイ、旧中川水辺公園等のアジサイ、都立シンボルプロムナード公園のバラ、汐浜運河のハクモクレン、江東区の花でもある都立亀戸中央公園のサザンカ等が挙げられます。

その他、深川花手水やコミュニティガーデン等、花に関する様々なイベントや体験、交流の場もあり、花が江東区の文化や暮らしに深く根付き、四季折々の笑顔を咲かせています。



サクラ（仙台堀川公園）



アジサイ（都立清澄庭園）



バラ（都立シンボルプロムナード公園）

【出典】一般社団法人 江東区観光協会ウェブサイト「江東おでかけ情報局 江東花めぐり」(<https://koto-kanko.jp/flower/>)

## コラム グリーンインフラの概念



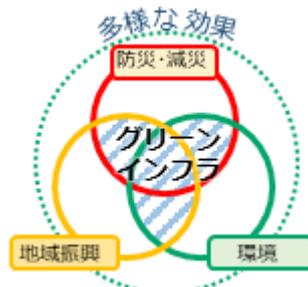
▲詳しくはこちら

近年、都市の持続可能性を高める手段として注目されているのが「グリーンインフラ (Green Infrastructure)」です。これは、従来のコンクリート中心の「グレーインフラ」に対し、自然の力を活用して都市の課題を解決しようとする考え方です。

グリーンインフラには、都市の緑地、公園、街路樹、屋上緑化、雨水浸透施設、湿地等が含まれます。これらは単なる景観の向上にとどまらず、都市の気温上昇を抑えたり、洪水リスクを軽減したり、生物多様性を保全したり、地域振興を進めたりと、多くの機能を持っていることが特徴です。

例えば、緑化された雨庭等の雨水貯留浸透施設や、都市のヒートアイランド現象を緩和する緑のカーテン等は、グリーンインフラの代表的な取組です。これらは環境負荷を減らすだけでなく、生きものの棲みかになり、住民の健康や快適性にも寄与します。

グリーンインフラは、都市計画や地域づくりにおいて、自然と共生する新たな価値を生み出す鍵となります。今後は、行政・企業・市民が連携し、地域の特性に応じた積極的なグリーンインフラの導入が求められます。



グリーンインフラの考え方

【出典】国土交通省ウェブサイト「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」(<https://gi-platform.com/>)